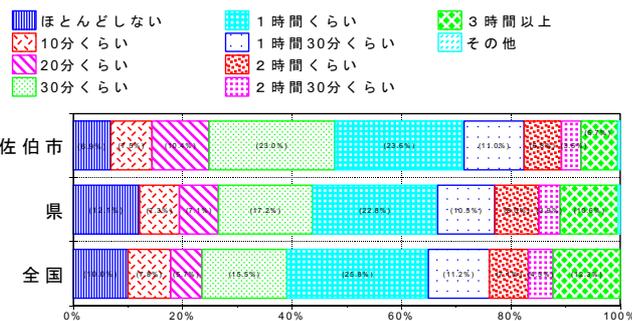


# 生活実態について（平成25年度各種調査における質問紙より）

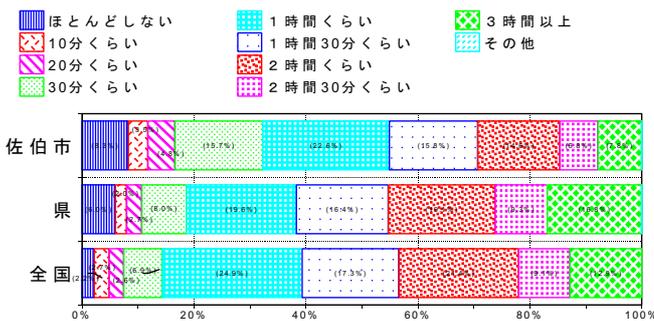
## 【大分県 学力定着状況調査児童生徒質問紙（小5・中2）の結果】（一部抜粋）

Q あなたは、この一か月、学校の授業時間以外に、一日どれくらい勉強しましたか。  
 （学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に見てもらっている時間もいれます。）  
 （学校の授業がある月曜日から金曜日について）

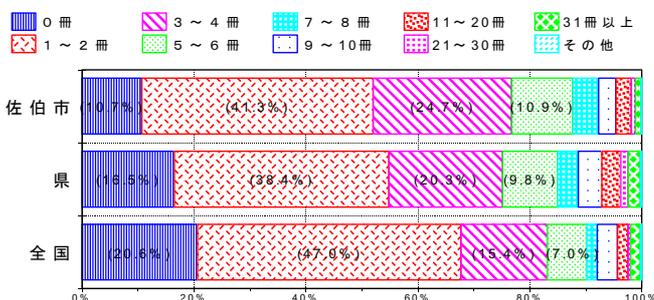
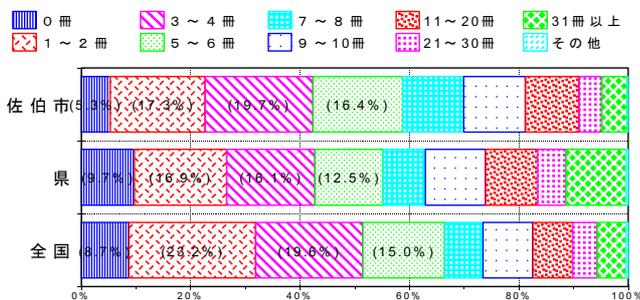
### 小学校5年生



### 中学校2年生

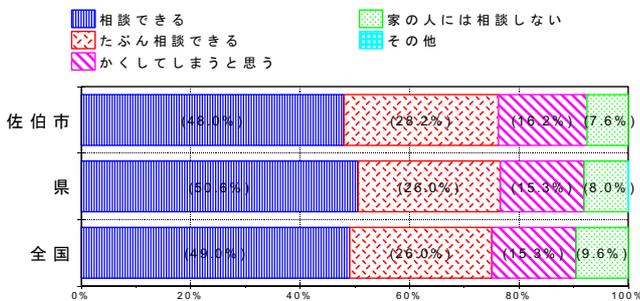


Q あなたは、この一か月の間に、本を何冊くらい読みましたか。  
 （教科書や参考書、マンガはのぞきます）

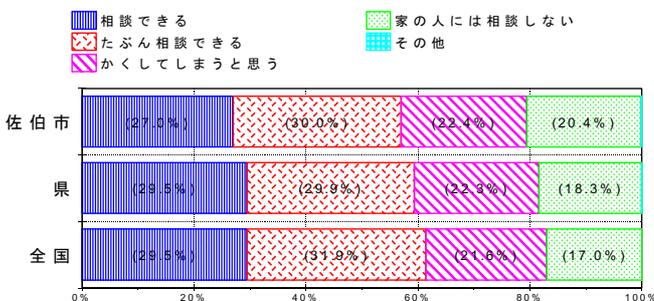


Q 本当につらい出来事があったとき、家の人の誰かに相談できますか。

### 小学校5年生



### 中学校2年生

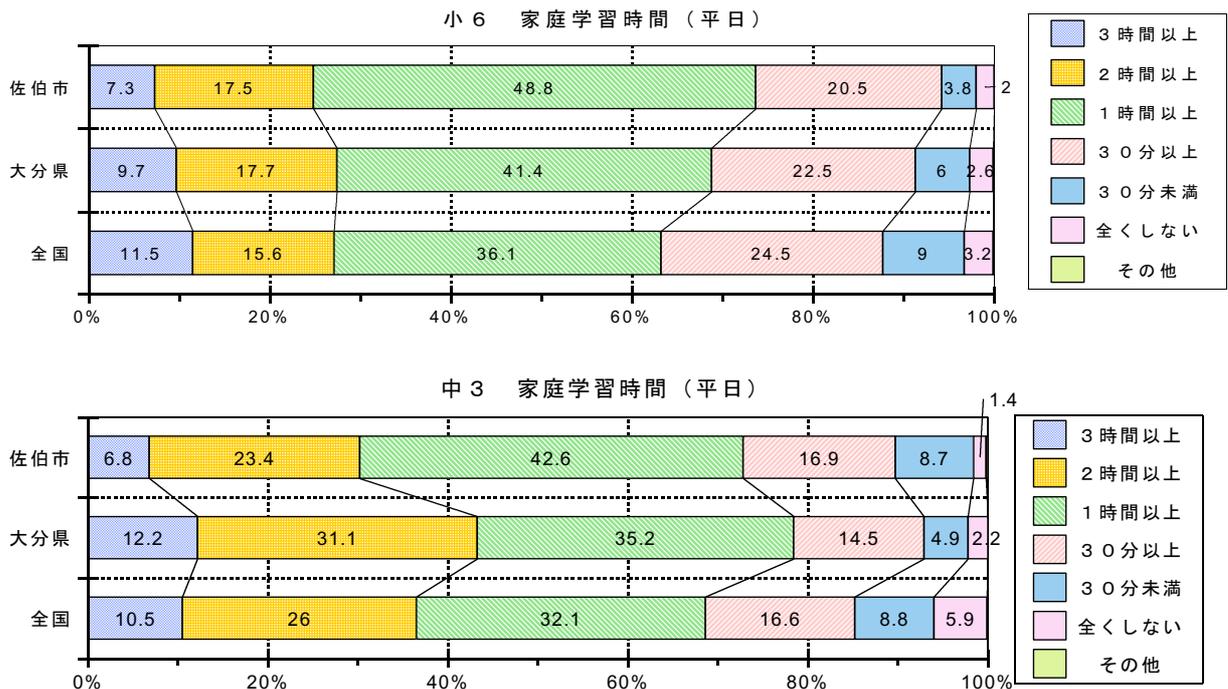


- 小学校5年生の平日の家庭学習時間について、1時間以上している児童の割合は5割を超える程度となり、県・全国平均を下回っています。グラフから、1時間程度している児童は県や全国と同じくらいの割合ですが、1時間以上している児童の割合が県・全国平均よりも少ないことがわかります。中学校2年生については、小学校5年生と同様に1時間以上している児童は6割を超えますが、県や全国平均を大きく下回ります。グラフから30分以下の生徒が3割程度を占めること、2時間以上している生徒の割合が県や全国平均よりもかなり少ないことがわかります。学習内容の定着や習熟に向けた家庭等での学習時間を充実させる必要があります。時間的・質的な向上を視野に入れた、家庭・学校間の連携がより重要になってくると思われます。
- 一ヶ月間の読書については、小学校5年生で5冊以上読む児童は全国の平均を上回りました。また、中学校2年生で5冊以上読む生徒の割合は小学校5年より少ないですが、全国の平均を上回りました。一方で、「0冊」か「1～2冊」の児童が2割程度、生徒が5割程度と多いことがわかります。文字を早く読む、文意を読み取る、他の人の考えを知る、想像力を伸ばす等、読書にはさまざまな効果が期待されます。読書へ導く指導とともに、家庭と連携し、読書習慣をつける取組がより重要になってくると思われます。
- つらい出来事を家の人に話すことができるかどうかについては、小学校5年生については肯定的な回答の割合が7割を超え、国を少し上回りました。中学校2年生については、肯定的な回答の割合が6割を切り、国の割合を少し下回りました。大人の方から様子をよく見て、積極的につながりを持つようとする取組が必要なことがうかがえます。

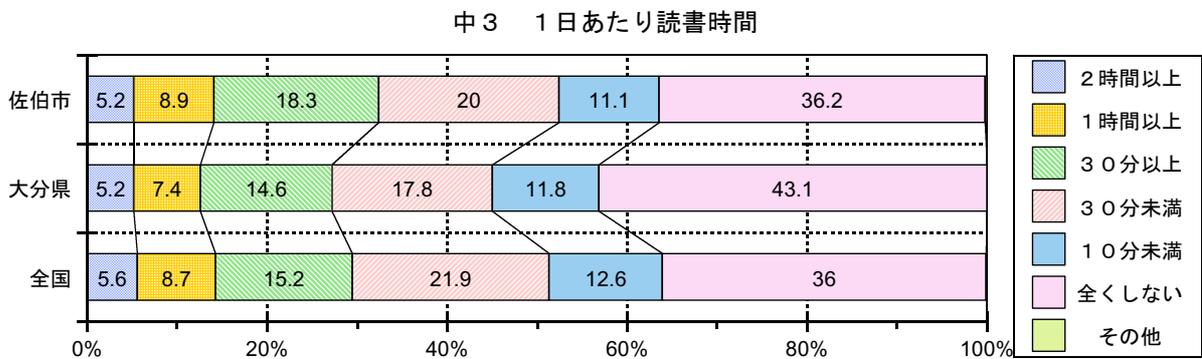
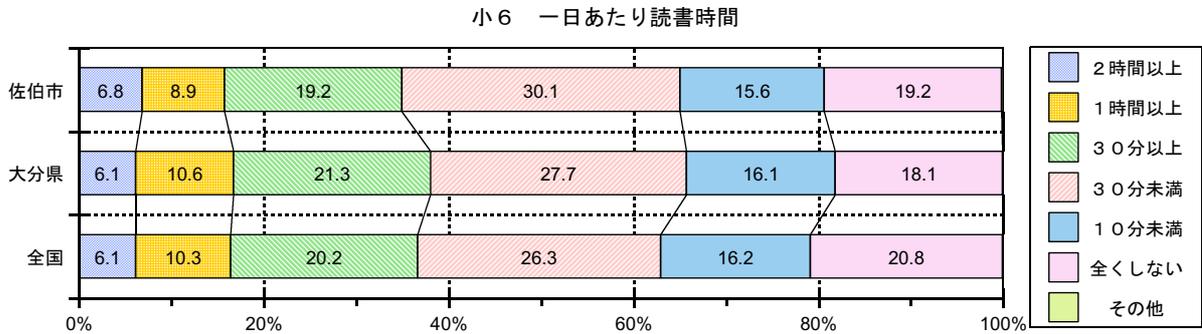
【全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙（小6・中3）の結果】

【学習状況調査（児童生徒質問紙の回答）の結果】（一部抜粋）

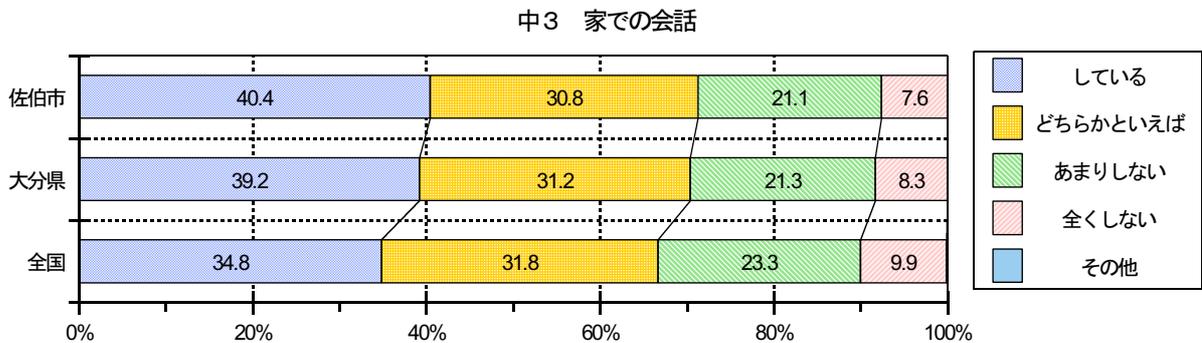
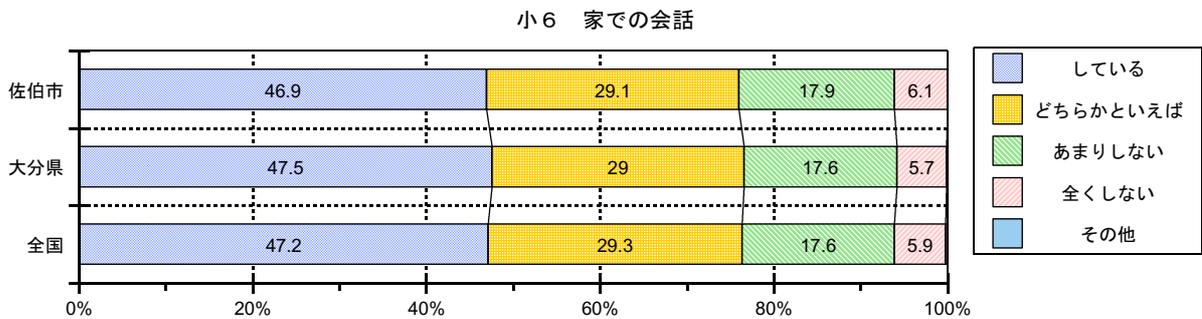
○学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾や家庭教師含む）



○家や図書館で普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。  
（教科書や参考書、漫画や雑誌除く）



○家の人と学校での出来事について話をしていますか。（兄弟姉妹除く）



○小学校6年生の平日の家庭学習時間について、1時間以上している児童の割合は全国平均より多くなり、1時間未満の児童の割合は全国平均と比べて少なくなりました。学校外で1時間～2時間未満している児童が5割程度と全国平均に比べて多くなっていることがその基盤にあります。

他方、2時間以上している児童の割合は全国平均に比べて少ないことがわかります。学習したことの定着や習熟、発展的な課題への取組など、家庭等での学習の質をさらに向上させていく取組の必要があります。

同様に、中学校3年生の平日の家庭学習時間についても、1時間以上の学習時間の割合が全国平均よりも多く、1時間未満の生徒の割合は全国平均と比べて少なくなりました。

1時間～2時間している生徒が全国平均よりも多いことがその基盤にあります。

他方、2時間以上している生徒の割合は全国平均よりも少ない状況にあります。これらの傾向は県平均と比べると、さらに顕著になります。小学校児童と同様に学習したことの定着や習熟、発展的な課題への取組など、家庭等での学習の質をさらに向上させていく取組の必要があります。

○1日あたりの読書時間については、30分以上しているとした児童の割合は全国平均を少し下回っています。他方、30分未満の児童が6割を超える状況にあります。家庭とも連携した、本に親しみ、言葉を増やしていくなどの取組が必要です。

中学生については、30分以上しているとした生徒は全国平均を少し上回っています。

しかしながら、全くしないと回答した生徒が3割を超えており、小学校6年生よりも多い状況にあります。小学校児童と同様に、家庭と連携しながら本に親しむ取組を行っていく必要があります。

○家の人との会話については、小学校6年生と中学校3年生の7割前後の児童生徒が肯定的な回答をしています。はっきりと「している」と回答した児童生徒の割合について、児童では全国平均とほぼ同等、生徒では全国平均を上回りました。他方、否定的な回答をした児童生徒が2～3割程度を占めており、大人の側から積極的に関わり、つながりを持ち続けようとする取組が必要です。